

I 建学の精神・大学の基本理念

使命・目的、大学の個性・特色等

I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等

1. 八戸学院大学の建学の精神と教育理念

「神を敬し、人を愛する」

八戸学院大学は、カトリック精神に則る道德教育を施し、高潔なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することを建学の精神とする。

図1 八戸学院大学「建学の精神」

八戸学院大学（以下、本学）の設置母体である学校法人光星学院（以下、法人）は、昭和34(1959)年3月、創設者洗礼名ヨゼフ中村由太郎（初代理事長）によって創設された。中村由太郎は自らの苦学の体験とキリスト教信者としての愛と奉仕の精神を基に、「若人に教育を与え、人格の陶冶を図り、地域社会の発展に寄与する人材を育成せん」として、「神を敬し、人を愛する」を建学の精神に掲げた。

中村由太郎は教育に対する並々ならぬ思いを抱いていたが、その思いは昭和31(1956)年4月に開校した光星学院高等学校（現校名：八戸学院光星高等学校）の設立趣意書で「進学の希望が満たされない多くの少年達を放置している事態は、地方教育界の未曾有の大事である。純真深刺たる多くの若人達の栄えある前途にこそ偉材が潜みいることを思い、進学の道を平にして彼等に光明を与え、秘めたる天分を見出し、その天分を遺憾なく發揮させ、真に人類社会の進歩発展に寄与せしめんとするものである」と述べられている。

また、中村由太郎は、昭和46(1971)年7月、法人の理想とする「立体的総合学園」構想を打ち出した。「幼稚園－中学校－高等学校－短期大学－4年制大学－大学院と正規の学校から、社会人を対象とする成人教育を含む生涯教育の場を完成し、この全学を一つの指導原理によって貫き、真に時代が要請する有用人材を育成しよう」と述べて法人の将来の展望を明らかにするとともに、「前途尚遠慮を思わせるものがあるが、急がずあせらず、着実に実行をして完成を期する」と強い決意を表明した。

このような建学の精神、理念を踏まえ、法人の理想実現に向けて、昭和56(1981)年4月、八戸大学（現校名：八戸学院大学）が開学した。建学の精神は「カトリック精神に則る道德教育を施し、高潔なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成する」ことであり、「神を敬し、人を愛する」という言葉に端的に表現されている。また、教育理念として「教育基本法及び学校教育法に基づき、カトリック精神に則り、広く豊かな教養をもち、正しい道德観と高い知性を有する青年の育成に努め、21世紀の要求している人間の育成、特に地方の時代の到来にこたえ、地方文化や地域経済に密着した教育をする」ことを掲げ、開学以来今日に至るまで受け継がれている。

さらに、近年急激な少子化が進行する中、本学の一層の充実・発展を期するためには、改めて建学の精神、理念に立ち返り、理想実現に向けて法人が一体となって地域と連携を強化する必要があると判断し、法人内すべての学校名に「八戸学院」を冠して統一性を図るとともにロゴマークを作成した。それにともない、平成25(2013)年4月に校名を「八戸大学」から「八戸学院大学」へと変更した。

八戸学院大学のロゴマークは図2のとおりである。



図2 八戸学院大学ロゴマーク

ロゴマークは、「八戸を愛する心」と「無限の可能性」を象徴しており、郷土の「南部菱刺（ひしざし）」をモチーフにして「連続性」をデザインしたものである。また、このロゴマークは、八戸の「8」を表現するだけではなく、「八戸学院グループ」が時代を超えて連続として受け継いでいく「未来への展望」をシンボライズしたものである。

なお、シンボルカラーは、内に秘めた情熱を持ちながら、冷静、沈着な思考力と行動力に富む人材の育成をイメージして、日本固有の伝統色である臙脂色（えんじいろ）とした。

2. 八戸学院大学の使命・目的

本学は建学の精神および教育理念に基づき、「八戸学院大学学則（以下、学則）」第1条第1項に、「カトリック精神に基づき、広く豊かな教養を授け、深い専門の学術を探究せしめ、正しい道德観と高い知性を有する民主的にして平和を愛好する人材を育成する」ことを使命・目的として定めている。

平成27(2015)年3月末に、系列の八戸学院短期大学（現校名：八戸学院大学短期大学部）に設置していた看護学科について、4年制大学に改組すべく文部科学省に申請し、同年8月末に設置認可を受けた。併せて、従前の人間健康学部看護学科を増設したことから、学部名称を見直し、「健康医療学部」に変更した。さらに、平成30(2018)年4月にはビジネス学部ビジネス学科を改組（募集停止）し、「地域経営学部地域経営学科」を開設した。このことにより、令和2(2020)年度は、地域経営学部地域経営学科（1～3年次）、ビジネス学部ビジネス学科（4年次）、健康医療学部人間健康学科・看護学科の2学部3学科体制となり、「学則」第1条第2項から第4項に各学部学科の教育目的を次のとおり定めた。

- ・地域経営学部地域経営学科（第2項：1～3年次）

経営学をはじめ社会科学の学問体系の基礎を学び、地域の企業、自治体、社会等あらゆる領域において経営に携わり、地域や世界に通用する人材を育成する。

- ・ビジネス学部ビジネス学科（旧「学則」第2項：4年次）

経営・会計・情報・商業等についての学びをふまえ、地域課題を分析し解決できる能力を備えたビジネスマインド、チャレンジシップを有し、地域発展に資する人材を育成する。

- ・健康医療学部人間健康学科（第3項）

こころとからだの健康についての学びをふまえ、幅広い分野の研究・指導・実践ができ、地域住民の健康増進と地域の保健医療の向上に貢献できる人材を育成する。

・健康医療学部看護学科（第4項）

豊かな感性と人間性を備え、日々進歩する看護の知識や技術に対応できる能力や地域の保健医療活動、健康増進に看護の実践者として貢献できる資質の高い人材の育成を目的とする。

3. 八戸学院大学の個性・特色

本学は、昭和 56(1981)年 4 月、11 教育機関を設置する法人を母体に、北東北地域唯一の「商学部商学科（入学定員 100 人）」の単科大学として開学した。

以来、有為な人材の育成をとおして地域の経済・社会・文化の発展に寄与することに努めるとともに、一貫して地域に立脚した大学として、教育、研究、そして社会貢献を行ってきた。しかし、国際化、情報化が急速に進んでいる現代のビジネス社会において、即戦力となる人材を育成するためには、社会科学である商学に経営学の実践的内容を積極的に取り込み、融合させた教育組織を新たに構築する必要があったことから、平成 16(2004)年 4 月に学部名称を商学部から「ビジネス学部」へと変更した。

また、近年の急速な高齢化、少子化によって、保健医療・福祉に対する国民や地域社会のニーズは増大かつ多様化してきており、誰もが健康で生きがいをもって家庭や地域で安心して豊かな生活を送ることができる社会の構築が喫緊の課題になっている。青森県では、生活習慣病などによる死亡率の高さ、医師不足、高齢化率の急上昇など諸課題も多く、個々人のニーズに応じたウェル・ビーイング（well-being）に対する支援の重要性が高まってきている。こうした時代と地域の要求に応えるべく、平成 17(2005)年 4 月に「人間健康学部人間健康学科（入学定員 100 人→現行 80 人）」を増設した。さらに、健康・医療・福祉等への注目の高まりを受けて、平成 28(2016)年 4 月に「看護学科（入学定員 80 人）」を増設するとともに、学部名称を人間健康学部から「健康医療学部」に改めた。

さらに、地元八戸市・青森県・岩手県北地域における企業や自治体をはじめとする各種事業体の“経営”に関する教育研究を強化・発展させるため、ビジネス学部ビジネス学科を改組し、平成 30(2018)年 4 月に「地域経営学部地域経営学科」として新たなスタートを切った。本学は、時代の要請と地域の要求に応えるべく改革に取り組んできており、教育の質を高めるために、以下の特色ある教育活動を展開している。

(1) 広く豊かな教養に基づく専門性と愛と奉仕に生きる良き社会人の育成

広く豊かな教養を身に付けるため、全学共通のリベラルアーツを基礎学力の確立と人間性の涵養を目的として、2 学部 3 学科において、「導入教育」のほか、「外国語を学ぶ領域」、「人としてのあり方を学ぶ領域」、「社会のあり方を学ぶ領域」、「自然と科学を学ぶ領域」の 5 領域に編成している。また、地域経営学部地域経営学科（以下、地域経営学科）と健康医療学部人間健康学科（以下、人間健康学科）では、学生が自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力や態度を培うことができるように「キャリアデザインⅠ～Ⅷ」を導入している。明確な専門性の形成を目的とする健康医療学部看護学科（以下、看護学科）では、看護師と保健師の国家資格の獲得へ向けて、カレッジアドバイザーによる進路支援面談とキャリア支援講座などを設定している。

(2) 現代社会の多様なニーズに対応できる専門性と実践力を身につけた人材の育成

現代社会が求めるニーズを的確に捉え、それぞれの専門的分野において自己の社会的役割を認識し、地域社会の発展に寄与することができる人材を育成するため、職業イメージや資格・免許の取得を念頭においたコース・プログラム制などを導入している。

ビジネス学部ビジネス学科（以下、ビジネス学科）では、地域発展に資する人材の育成を目指し、「経営コース」と「公共コース」を設けている。また、地域経営学科では領域制とし、「地域経営領域」と「情報・会計領域」を設けている。人間健康学科では、現代社会の健康ニーズに対応できる人材の育成を目指して、「スポーツ科学コース」と「健康科学コース」を設けている。看護学科では、看護師養成課程と保健師養成課程を設けている。

これらコース・プログラム制などに基づき、学生の主体的な学修を促し、専門知識と技術が体系的に修得できるように、順序性を明確にした科目配置を行っている。

さらに、専門知識・技術を修得し、学内外の活動に積極的に参加することを目的として、ビジネス学科、地域経営学科、人間健康学科では「八戸学院マイスター」という認定制度を設けている。ビジネス学科と地域経営学科ではビジネスに関する専門分野（経営・地域経営・会計・金融・情報・法律・経済・社会学など）、人間健康学科では健康に関する専門分野（医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養など）の知識・技術を優れた成績で修得し、かつ、人物が優れている学生をそれぞれ「ビジネスマイスター」、「地域経営マイスター」、「健康マイスター」として認定している。

(3) 地域に根ざしたフィールドワークによる教育および社会貢献

本学の教育理念に基づき、地方文化や地域経済に密着した教育を施すとともに、「地域を学びのキャンパス」とした教育活動を行っている。

実践的な教育としての産官学の連携によるフィールドワークとして、地域経営学部では、「アブラメのブランド化推進事業」、「ミネフジツボの養殖化」、「八食センター利用拡大へ向けた事業創造」が挙げられる。これらの活動をとおして、学生に地域活性化のビジョンや方策について考える機会を提供している。

健康医療学部では、地域に根ざした教育活動や社会貢献として、地域住民を対象とした公開講座と健康調査を行っている。公開講座は、地域住民に対して健康に関する学習機会を提供し、健康意識の向上を図ることを目的として行っている。さらに、学生が中心となって行っている地域住民に対する健康調査では、地域住民の健康増進、特に健康寿命の延伸に寄与することが期待されている。

このように地域社会と連携したフィールドワークは、学生の実践力を高め、地域が抱える問題を解決する能力を培うとともに、本学の教育理念である地域社会の経済・文化の発展に寄与できる人材の輩出に繋がっている。

(4) 国際的な視野をもった地域社会を担う人材の育成

本学は、グローバル化する社会の中で学生が国際的視野と理解力を十分に備え、新たな地域社会の創生に寄与できる有為な人材の育成に努めている。その柱の一つが国際交流である。本学では「アメリカ海外研修」、「タイ国海外研修」、「EF 海外語学研修」、「CNE1 語学研修」などの海外研修制度や語学研修制度を実施している。学生が毎年度、これらの

研修制度を活用して、語学力の向上はもちろん異なる文化を持つ人々との共生を学んでいる。

令和元(2019)年度に設置された国際教育部門が、令和 2(2020)年度に大学学務部国際交流支援室として新設され、フィリピンセンター、オーストラリアセンター、中華人民共和国センターと連携した留学生支援活動を開始した。さらに本学では、JICE（日本国際交流センター）と連携し、在住外国人や地域住民との交流活動を行っている。

4. 新型コロナウイルス感染防止プロジェクトチームによる対応

全国各地での新型コロナウイルス感染拡大にともない、令和 2(2020)年 3 月の常任理事会において学校法人産業医（健康医療学部看護学科教授）、大学・大学短期大学部学校医（健康医療学部学部長）および健康医療学部看護学科長の 3 人で構成される新型コロナウイルス感染防止プロジェクトチーム（以下、PJT）が立ち上げられ、キャンパス内外における感染防止・感染拡大防止対策について検討するよう要請された。

PJT では、地域の感染状況や感染対策についての正確な情報の把握に努め、文部科学省や厚生労働省から通知された関連文書に即した対応の提言や助言を行っている。具体的には、実施すべき各種感染防止・感染拡大防止対策の指示・確認のほか、本学および八戸学院大学短期大学部の新学期オリエンテーションや講義の日程・方法の検討、部・サークル活動や学内施設の使用に関する方針を決定するための継時的な協議などを行っている。また、学生・教職員への感染対策の注意喚起を適時行っている。